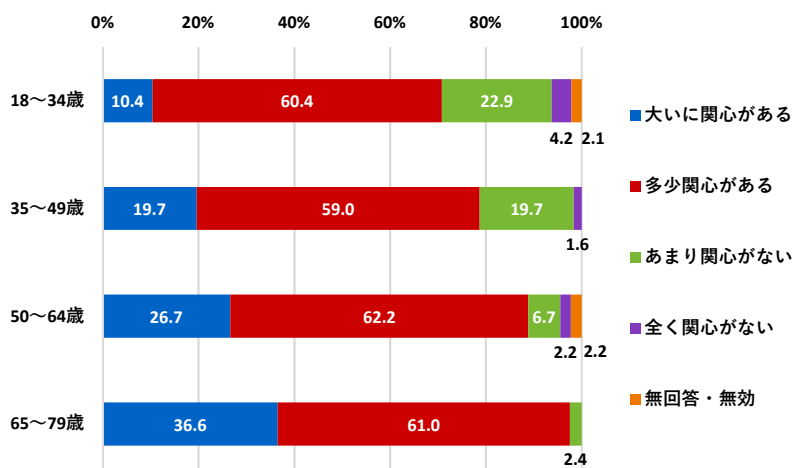
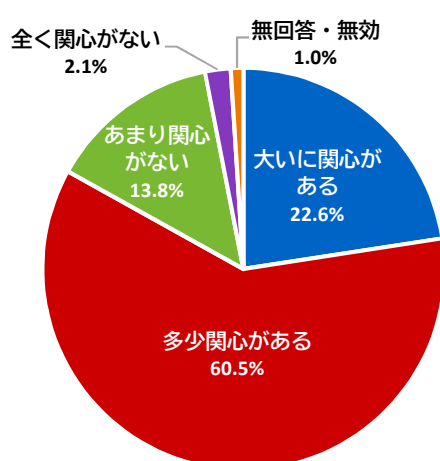


3 家庭ごみ減量・資源化の取り組みについて

(環境部 一般廃棄物対策課)

■ 問1 家庭ごみの減量と資源化を推進する取り組みについて 関心があるか

(n = 195)

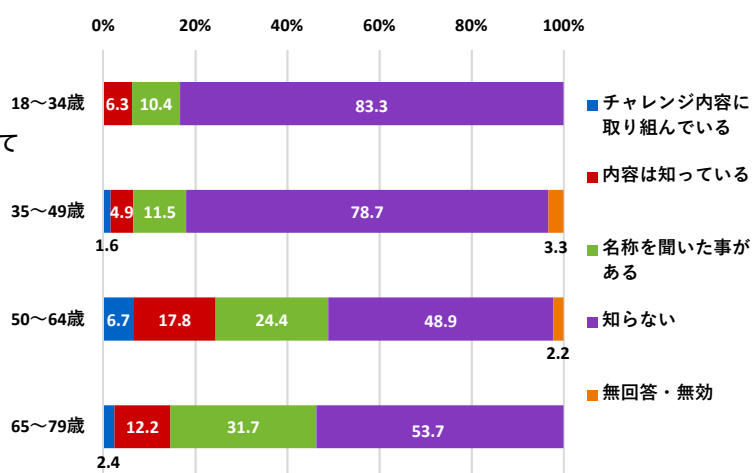
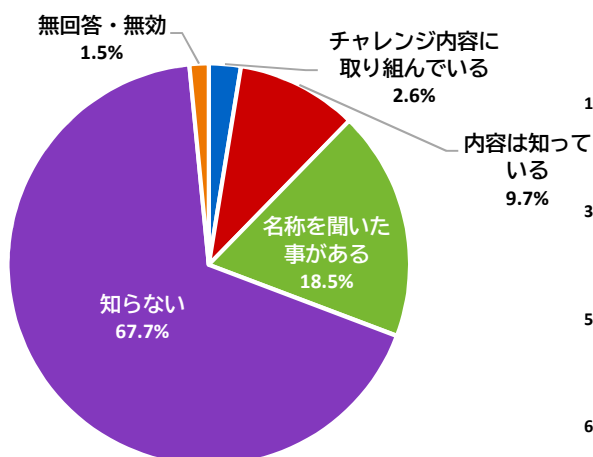


- 家庭ごみの減量と資源化を推進する取り組みについての関心は、「多少関心がある」が最も多く60.5%となっています。
- 世代別にみても、全世代において「多少関心がある」が最も多くなっています。

■ 問2 家庭ごみの減量を目指して取り組んでいる『Go！みんなで404チャレンジ』を知っているか

(n = 195)

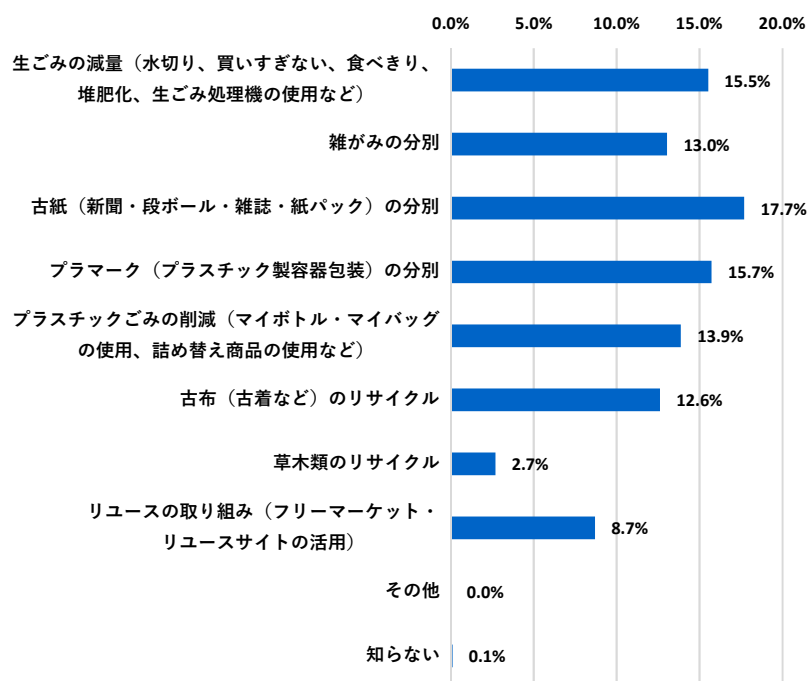
※404チャレンジとは、令和10年までに一人1日あたりの家庭用ごみ排出量を404gまで減らそうという取り組み。



- 家庭ごみの減量を目指して取り組んでいる『Go！みんなで404チャレンジ』について、「知らない」が67.7%となっています。
- 世代別にみても、全世代において「知らない」が最も多くなっています。

■ 問3 知っている家庭ごみの減量・資源化の方法はなにか

(n = 195 複数回答)



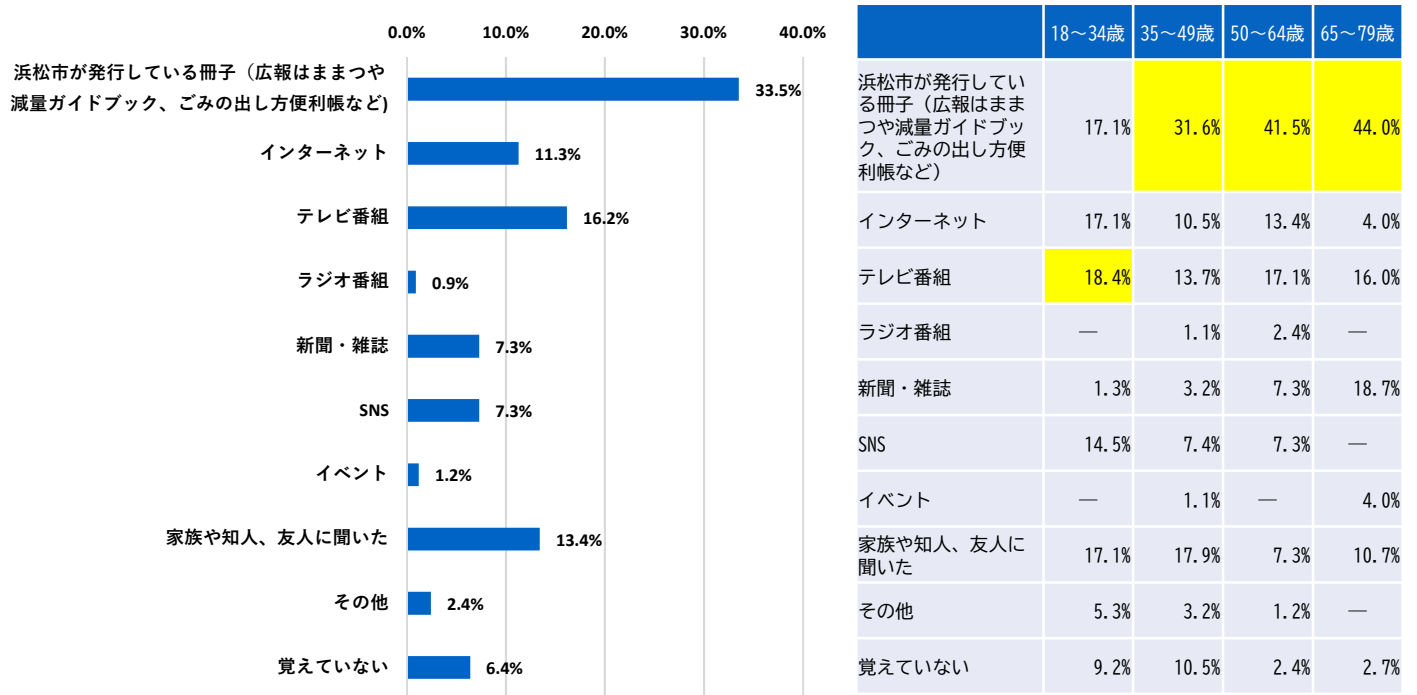
	18～34歳	35～49歳	50～64歳	65～79歳
生ごみの減量 (水切り、買いすぎない、食べきり、堆肥化、生ごみ処理機の使用など)	13.2%	16.4%	15.1%	17.4%
雑がみの分別	13.7%	12.4%	13.9%	12.1%
古紙 (新聞・段ボール・雑誌・紙パック) の分別	19.2%	16.8%	17.0%	18.4%
プラマーク (プラスチック製容器包装) の分別	17.4%	15.1%	14.7%	16.3%
プラスチックごみの削減 (マイボトル・マイバッグの使用、詰め替え商品の使用など)	13.2%	14.4%	13.5%	14.2%
古布 (古着など) のリサイクル	12.3%	12.4%	12.7%	13.2%
草木類のリサイクル	1.8%	2.3%	2.3%	4.7%
リユースの取り組み (フリーマーケット・リユースサイトの活用)	9.1%	9.7%	10.8%	3.7%
その他	—	—	—	—
知らない	—	0.3%	—	—

- 知っている家庭ごみの減量・資源化の方法はなにかについて、「古紙 (新聞・段ボール・雑誌・紙パック) の分別」が17.7%、次いで「プラマーク (プラスチック製容器包装) の分別」が15.7%となっています。
- 世代別にみても、全世代において「古紙 (新聞・段ボール・雑誌・紙パック) の分別」が最も多くなっています。

■ 問4 家庭ごみの減量・資源化の方法をどのように知ったか

(n=194)

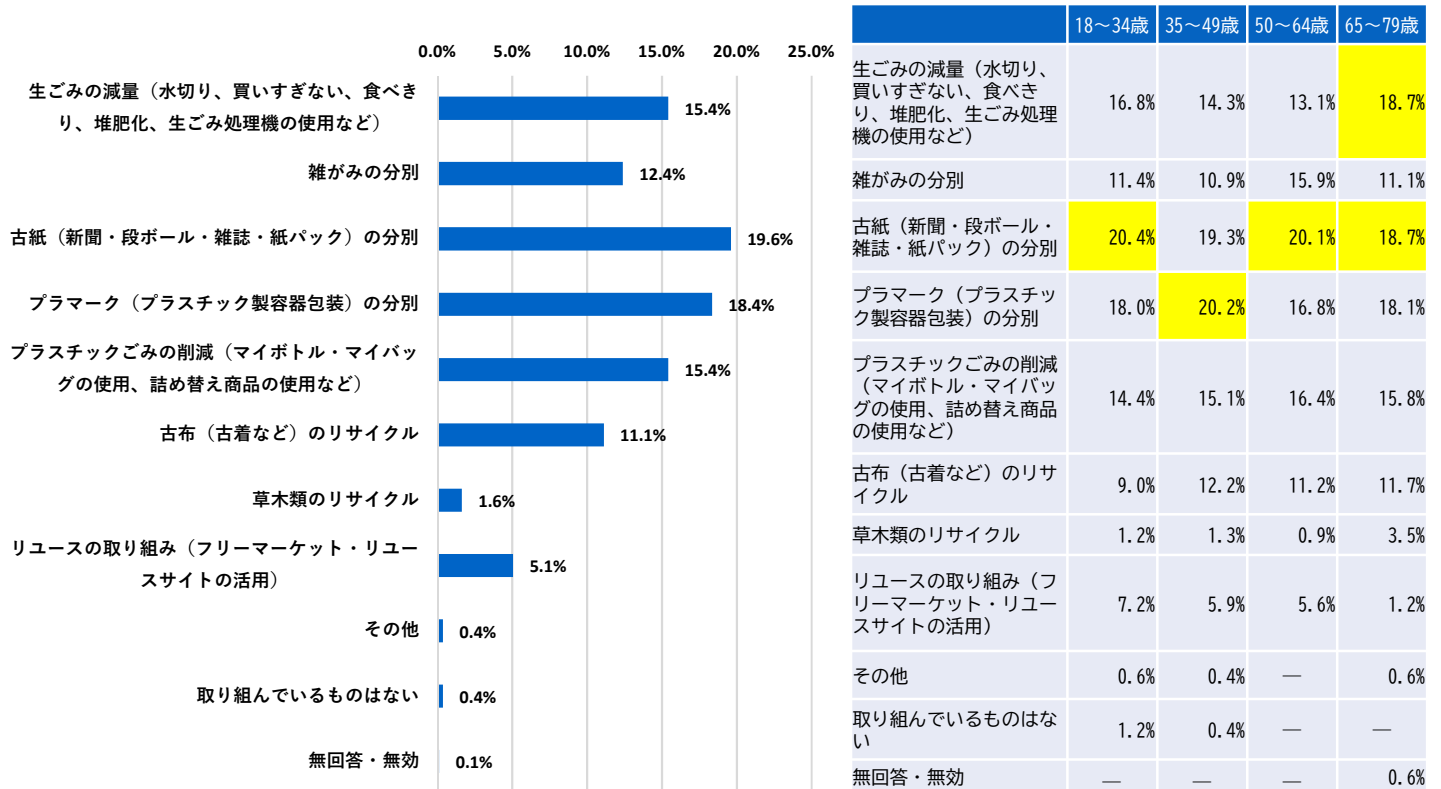
(問3で「1～9」と回答された方)



- 家庭ごみの減量・資源化の方法をどのように知ったかについて、「浜松市が発行している冊子（広報はまつや減量ガイドブック、ごみの出し方便利帳など）」が33.5%となっています。
- 世代別にみると、18～34歳では「テレビ番組」が、その他の世代では「浜松市が発行している冊子（広報はまつや減量ガイドブック、ごみの出し方便利帳など）」が最も多くなっています。

■ 問5 取り組んでいる、家庭ごみの減量・資源化の方法はなにか

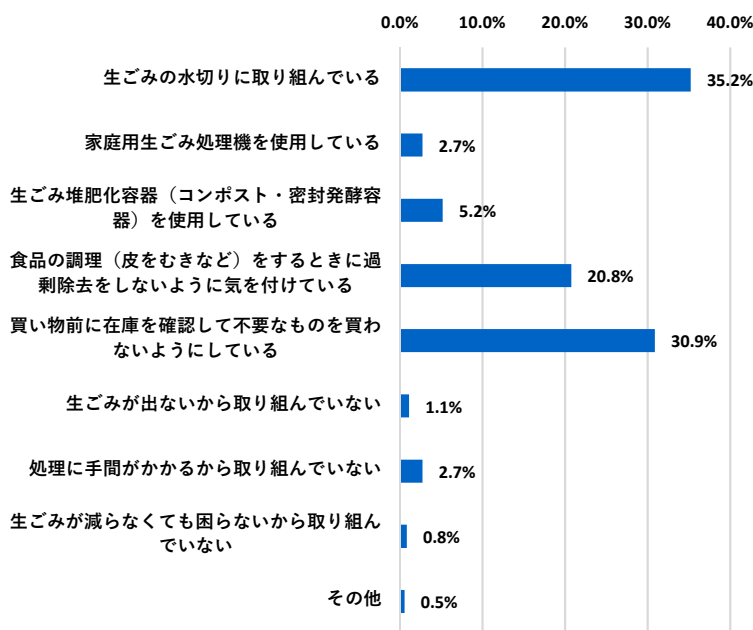
(n = 195 複数回答)



- 取り組んでいる、家庭ごみの減量・資源化の方法について、「古紙（新聞・段ボール・雑誌・紙パック）の分別」が19.6%、次いで「プラマーク（プラスチック製容器包装）の分別」が18.4%となっています。
- 世代別にみると、18~34歳、50~64歳では「古紙（新聞・段ボール・雑誌・紙パック）の分別」が、35~49歳では「プラマーク（プラスチック製容器包装）の分別」が、65~79歳では「生ごみの減量（水切り、買いすぎない、食べきり、堆肥化、生ごみ処理機の使用など）」と「古紙（新聞・段ボール・雑誌・紙パック）の分別」が同率で最も多くなっています。

■ 問6 生ごみの減量について

(n = 195 複数回答)

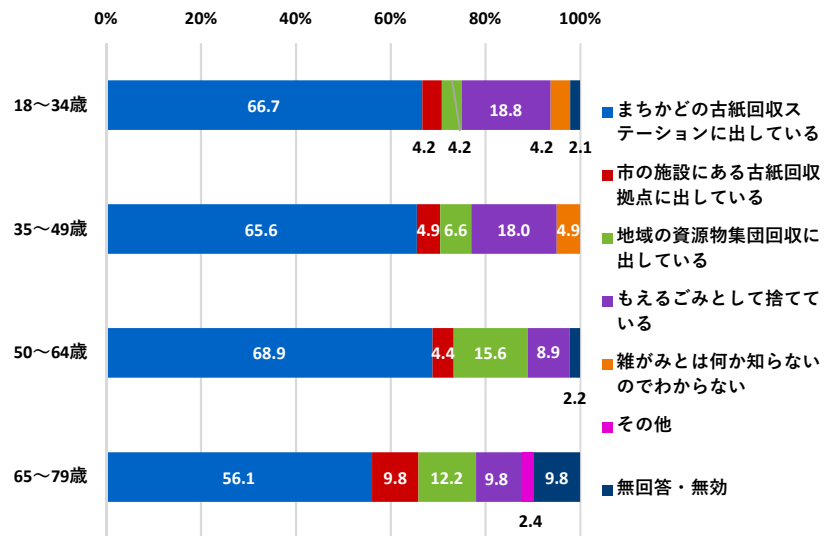
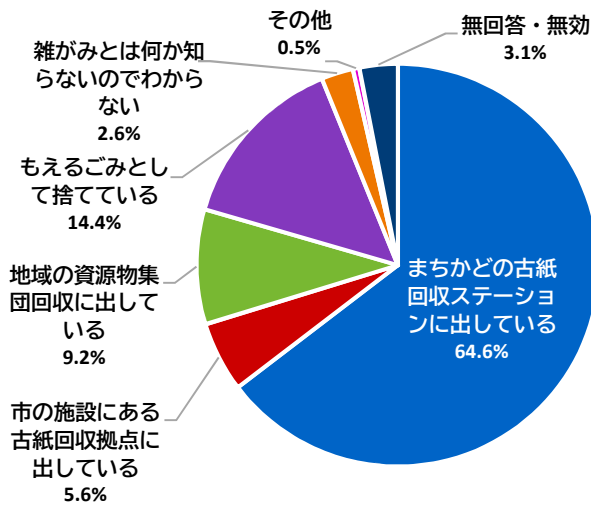


	18～34歳	35～49歳	50～64歳	65～79歳
生ごみの水切りに取り組んでいる	33.3%	31.3%	39.8%	37.3%
家庭用生ごみ処理機を使用している	5.1%	1.8%	3.2%	1.2%
生ごみ堆肥化容器（コンポスト・密封発酵容器）を使用している	5.1%	4.5%	3.2%	8.4%
食品の調理（皮をむきなど）をするときに過剰除去をしないように気を付けている	24.4%	24.1%	18.3%	15.7%
買い物前に在庫を確認して不要なものを買わないようにしている	25.6%	30.4%	32.3%	34.9%
生ごみが出ないから取り組んでいない	—	1.8%	—	2.4%
処理に手間がかかるから取り組んでいない	6.4%	3.6%	1.1%	—
生ごみが減らなくても困らないから取り組んでいない	—	1.8%	1.1%	—
その他	—	0.9%	1.1%	—

- 生ごみの減量について、「生ごみの水切りに取り組んでいる」が35.2%、次いで「買い物前に在庫を確認して不要なものを買わないようにしている」が30.9%となっています。
- 世代別にみても、全世代において「生ごみの水切りに取り組んでいる」が最も多くなっています。
- その他では「ディスポーザーを使用している」「コンポストをやりたいが、マンションのため行っていない」などがあります。

■ 問7 雑がみの処分方法について最も利用している方法は何にか

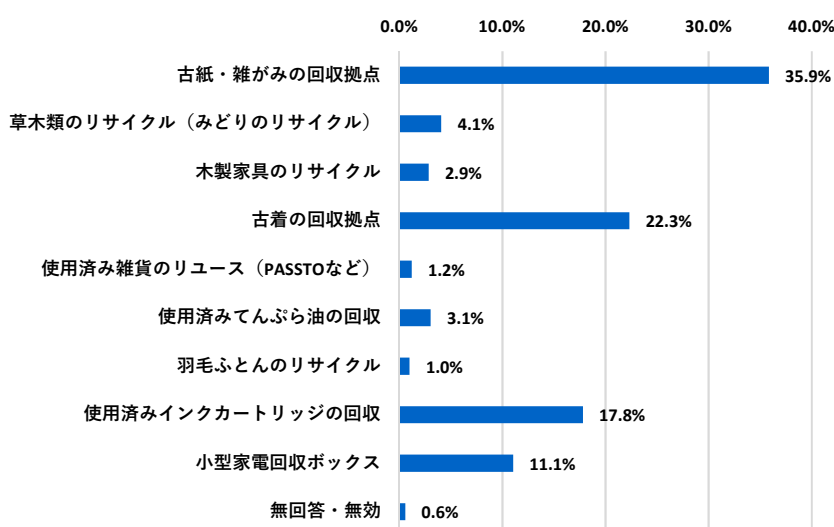
(n = 195)



- 雑がみの処分方法について最も利用している方法について、「まちかどの古紙回収ステーションに出している」が64.6%となっています。
- 世代別にみても、全世代において「まちかどの古紙回収ステーションに出している」が最も多くなっています。

■ 問8 次の選択肢から利用したことがあるものはなにか

(n = 195 複数回答)



	18～34歳	35～49歳	50～64歳	65～79歳
古紙・雑がみの回収拠点	42.3%	37.8%	32.0%	32.2%
草木類のリサイクル（みどりのリサイクル）	4.1%	4.1%	0.8%	7.8%
木製家具のリサイクル	4.1%	4.1%	1.6%	1.7%
古着の回収拠点	19.6%	24.3%	20.3%	24.3%
使用済み雑貨のリユース（PASSTOなど）	—	2.0%	1.6%	0.9%
使用済みてんぷら油の回収	3.1%	1.4%	3.1%	5.2%
羽毛ふとんのリサイクル	—	0.7%	—	3.5%
使用済みインクカートリッジの回収	16.5%	17.6%	24.2%	12.2%
小型家電回収ボックス	10.3%	7.4%	14.8%	12.2%
無回答・無効	—	0.7%	1.6%	—

- 利用したことがあるものについて、「古紙・雑がみの回収拠点」が35.9%、次いで「古着の回収拠点」が22.3%となっています。
- 世代別にみても、全世代において「古紙・雑がみの回収拠点」が最も多くなっています。